

## 中央大學研究會第二回例會

五月十五日(日曜)午後五時より本學學員俱樂部に於て研究會第二回例會を開く。第二分科會第一回の研究會にして、本學教授松浦要氏の『經濟學研究方法に關する一考察』なる題下に研究報告ありたり。報告終りて幾多の質問あり未だ終らざる中に用意の晚餐卓上に運ばる、時に午後七時。晚餐中も話題は常に右講演の上を往來し、食後引續き質問論議ありて九時半に至り時の足らざるを惜しみつつ散會せり。斯く出席者一般に亘りて等しく興味を持ち各自意見の開陳ありしは寔に斯種研究會には珍しく甚だ喜ばしきことと言はざるべからず。これ講演者自ら謂へる如く本夕の研究報告が成るべく廣きに亘り興味あり論議の餘地あるものを選ばれしと、研究會員の學究に對する眞摯なる態度に出づるものなり研究報告の概要は次の如し。

一、本報告は學究報告たると共に其内容よりして經濟學の實際研究に當りとるべき方針に關する一の提案にして實際經濟現象の觀察並に之と性質を同じくする資料の蒐集とに先づ研究の主力を集中し、之より理論を構成すべく、少からず概念の遊戯並に常識の理論化に傾

かんとする斯學の研究を引戻し、協力努力して眞の科學として經濟學を樹立したき希望を有す

一、從て一社會事象たる經濟現象は個人意識より説明し得るや否やの社會學上の研究方法につきタルドとデュルケムとの所説を紹介し之に對し若干の考察を加へて斯學研究方法の上に幾分にも光明を投ぜんとす

一、タルドのシステムに於て就中重要なる役目を有するものは『模倣』にして社會生活の基礎を構成する精神並に意思の「微細に亘る一致は一に此の suggestion-imitation」に發す即ち一觀念又は一動作の最初の創造者より發するものは其周圍より周圍へと傳播波及し茲に社會的一致即ち一社會事象を生出すと考ふ波紋波及の物理的現象に似たり然るに此の如き波紋運動若しくは之に依て生ぜし一事象は他の創造並に之より發する波及に遭遇し促進若しくは背反の現象を生ず此背反は各要素間に不和を醸すことにして此不和不調和は反覆に依て緩和され adaptation に到達す其結果は即ち社會的統一にして社會事象は此の如く生成轉化生長すと考ふ即ちタルド自身謂へる如くデュルケムが社會事象「le grand」を以て「le petit」を説明せんとするに反し「le petit」を以て「le grand」を説明せんとするものなり

一、反之社會事象と個人意識との關係に就ては前者

を以て後者に先行し後者を規定し自らは獨立の存在を有すと考ふること之れデュルクムの根本思想なり社會事象の獨立性は其個人意識に對する拘束抑壓に依て確めらる之れ社會事象が個人を超越し個人意識に對し外部的なる獨立存在を有する爲にして研究對象として chose たるの性質を備ふる所以なり其結果之が研究は外部より之を觀察する方法をとらざるべからず個人として有する觀念の分析的研究を以て此觀察に出發する研究に代ゆるは不可なり加之個人的 representation が其頭腦細胞外のものたると等しく社會事象は斯く社會を構成せる要素たる個人の representation 外のものなるを以て之が説明は同じく社會的性質を有する事象を以てせざるべからず其の實例としてデュルクム分業説の梗概の紹介あり

一 以上兩説を比較し報告者は社會事象の本質に關し之を chose して其獨立性を認むることに賛し更にデュルクムと共に經濟學上價值、生産、需給等に關する研究の社會事象研究の態度を探れるものに非ざるを説き終りに特に本學教授にして斯學研究に携はる人々が本問題を十分考慮し出來得べくんば方針の一致を計りて協力斯學の内容充實に努むることの希望を述べたり

尙當日參會者は講演者を始め、高木、橋本、樽崎、和田

柴田、生出、八木澤、川原、長崎、黑澤、杉本、三輪、丹後、玉井、隴谷の諸教授なりき(研究會幹事記)